

## 第8回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会 議事概要

日時：平成 27 年 3 月 10 日（火） 14:00～16:00

場所：八代市厚生会館 大会議室

### ■議事次第

1. 開会
2. 事務局からの説明
  - ・第7回委員会の議事要旨について
3. 議事
  - ・萩原堤防のデザイン検討について・萩原堤防のデザイン検討について
4. 報告
  - ・遙拝堰下流の瀬の再生に向けた河床デザイン検討について
  - ・球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりについて
5. 今後のスケジュールについて
6. 閉会

### ■議事要旨

#### ①第7回委員会の議事要旨について

委) 特に修正すべき点はない。

#### ②萩原堤防のデザイン検討について

委) 萩原堤防の関係施設の配置は、その組み合わせをよく考えないといけない。階段の配置は導線が一番大事だが、一方で、階段をどこに配置するかによって、重要なはずのはねの格が落ちる。歴史性に加えて、眺望や日当たり等でメリハリをつけ、導線を含めた階段の位置を検討すべき。

委) 萩原堤の南側は河川敷公園になっており、人がたくさん来るので、そちらから堤を見る人も多い。前に商工会議所から、船を浮かべて堤を観賞してはどうかという話もあった。対岸から見る萩原堤の景観について、もう少し検討していただきたい。

委) 歴史的土木遺構としての石はねの、正に真正面に階段を持ってくると、行きやすいが、どこからどう写真を撮っても階段が中に入ってくるし、風景の中にも入ってくる。そういう近代的な異物をワンカットの中に確実に入るような位置に配置していいのか。特に対岸の豊原の方から見たときに、石はねがよく見えるところに必ず階段が入ってしまう。全体の導線なりデザインを考える上で、光と水面の関係が非常に重要だということであれば、今はそういった観点がまだ入っていない。あくまで利便性という観点で、行く道と帰る道で同じ道を通らないよう、自由に周遊できるようにということで、現在

の形になっている。この2つの観点、石はねのリスペクトの話、水面と光の関係、ぜひ色々のご意見を賜ればと思う。

委) 石はねの景色、歴史的な風景を大事にしたいのであれば、階段は外すべき。一方で、階段があれば、石はねの上で演奏等を行って、それを階段から眺めるといった使い方もでき、すごく絵になるだろうと思う。この萩原堤の一番の主役で、アクセントをつけるのは石はねなので、丁寧に考えた上で決められるのがいいと思う。導線について補足すると、300mも何もなく歩くというのは結構しんどい。何かアクセントが欲しい。石はねの間は300mで、その間に階段を置くと150mぐらいなので、そっちのほうが歩きやすい気がする。

委) 配付資料の12ページの左下に荒瀬地区の石張りの写真が出ているが、この水が当たるか当たらないかぐらいのところに植生が少し付くだけで、生き物にとっての環境としては全然変わって、おそらくエビの類いがたくさんつくようになる。そうすると、エビを食べるウナギが集まる等、そういう効果も当然期待できる。そういう意味では、詳細設計の段階は、水際に一工夫すると、幾らでも生態系に効果のあることができるのではないかと考える。高い木がたくさん生えると光を遮るので、今度は水際に生えるような小さい植物が生えなくなる。あまり茂り過ぎたら間引く等、そういうことも検討した方がよい。

委) 八代市では、かわまちづくり協議会を1月20日に立ち上げた。そこで伺った環境デザインとのつながりが、今話を伺いながら腑に落ちているところである。この球磨川、萩原堤を含む周辺というのは、八代市にとっては非常に重要な場所であり、単に市街地に非常に近いとか、交通の利便がいいとかだけでなく、400年前に造られた堤防が、年数を経て時間の洗礼を受け、そして人とともに過ごして来て受け継がれている。それを今後私たちがどうつなげていくかということをしっかり考えていただいているのだなというふうに受けとめた。ここの中で大事な価値観をどういうふうに組み合わせしていくか。自然との共生、景観。もちろん、安全性が一番のベースと思うが、その中で人々の暮らしをどう高めていけるのかというようなところをしっかりと話していただき、非常にありがたい。その種をここで作っていただいて、今後守り育てていくためにはどうするのかというところで、かわまちづくり協議会の役割がしっかりと果たせていけるのではないと思う。

委) 先だって、球磨川に一番接している萩原地区の自治会の研修会があり、今まちづくりマップを各地域でつくっているが、どういうふうに陳情したらいいのかという話もあった。地元でも一生懸命そういう話し合いをやっているところがあるので、ひとつそういう意見も聞いていただきたい。

③遙拝堰下流の瀬の再生に向けた河床デザイン検討について

※検討状況の報告のみ

④球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくりについて

※検討状況の報告のみ

⑤今後のスケジュールについて

- ・ 今年度中には、遙拝堰直下の瀬を再生する工事が始まり、来年度には、萩原堤でも工事に着手する。また、下流部の河口域、汽水域の自然再生、環境保全についても、今後ワーキングの中で対策が議論されて行く予定である。

－以上－